

「ふりかえりプリント（質問紙）」の実施・処理について

お願い

この質問紙（２種類）は、名古屋市特別活動実践研究会で定義した「社会性」に関して学級集会や学校行事の事前の話合いの指導、あるいは、本番の指導の評価に活用するものです。

この質問紙は、名古屋市立福春小学校の宮田延実と関西大学大学院の清水和秋教授の共同研究の一環として開発・研究を継続しています。支障がなければ、実施されたデータを福春小学校の宮田延実まで、提供をしていただけるとありがたいです。

できれば、交流プログラムの実施前と実施後などのデータ、年度初めと年度末のデータなどを同一学級でのデータなど、複数回の実施データをいただけるとありがたいです。

送付先：下記のアドレスです。

入力フォーム（開発部グラフ）にデータとを入れ、

- 1) 学校名、2) 実施時期、3) 学年、4) 交流プログラムの実施か未実施か、5) 実施した学校行事・活動名の情報も入力して添付ファイルでお送りください。

august4052@yahoo.co.jp 宮田延実あて

質問紙について

1 質問紙の種類

- (1) 話合い後に実施する意識調査 「ふりかえりプリント（話し合い）」
- (2) 行事や集会後に実施する意識調査 「ふりかえりプリント（かつどう）」

2 質問紙の内容について

① 「ふりかえりプリント（話し合い）」

- 1～6は、交流（発言・傾聴の交流など）
- 7～12は、他者理解（個別事情理解、同質・異質性理解など）
- 13～19は、自己実現（支持獲得、有能感など）
- 20～25は、集団寄与（規範遵守、他者支援など）

② 「ふりかえりプリント（かつどう）」

- 1～6は、交流（受動的・能動的交流など）
- 7～12は、他者理解（個別事情、同質・異質性理解など）
- 13～19は、自己実現（意思の実現、有能感など）
- 20～25は、集団寄与（規範遵守、寄与行動など）

※ ①②は、何らかの話合い・学級集会（学校行事）を想定することが必要となります。また、事前指導ガイドラインに沿って、交流プログラムを実施することにより、子ど

ものどの力が伸長するか分析します。

3 実施上の留意点

- (1) 質問紙については、答え方の説明をして、質問文をひとつひとつ読んで回答をさせていくようにお願いします。学年が下がるほど説明が必要になると思われるので、質問があれば、先生のお考えで答えてください。
- (2) ①②の質問紙を実施する時、交流プログラムの実践が未実施であるときは、①は、「これまでの学級集会について話し合った学級会を思い出して答えてください」、②についても同様に「これまでの学級集会、学校行事を思い出して答えてください」と教示してください。
- (3) ①②のすべての質問紙は、回答者が特定できるように、番号（出席番号など）は、年間を通して変えないようにしてください。
なお、名前の記述に支障があるようでしたら、名前のみ省略しても結構ですが、それ以外の学年・性別は、分析データの対象となりうるため、記入させてください。

実施後のデータ入力と処理について

※ 開発部グラフは、名古屋市港楽小学校の福永尚史が作成しました。

(1) 入力

「そう思わない」を1点、「すこしそう思う」を2点、「わりとそう思う」を3点、「そう思う」を4点として、入力シートに半角数字を入力します。

逆転項目は処理せずにそのまま入力してください。

(2) 逆転項目について

①②には一問ずつ逆転項目（①は11，②は6）があります。この質問項目の得点は上記の反対（「そう思わない」は4点，「そう思う」は1点）になりますが、入力フォーム（開発部グラフ）には、そのまま入れてください。自動的に逆転処理がされます。

(3) 散布図作成を手作業で行う方法

散布図を描くには、まず、個人の交流項目 1~6, 同様に他者理解 7~12, 自己実現 13~19, 集団寄与 20~25 の各個人平均点（1~4 点の範囲）を出します。

交流を縦軸，他者理解を横軸とし各軸の目盛りを1～4としたグラフに，個々の平均点を点としてグラフ中に印を付けていきます。このようにしてクラス全員分が載ると散布図ができます。手作業でやっていると，個々の子どもの得点と姿が結び付き，数値の意味について考察できるかもしれません。また，個々の点の集まりから集団の傾向がつかめると思われます。